

I 教育の改革

Nagasaki University
ACTION PLAN
2020 - 2023

1 時代に即応した不断の教育組織の改革

歴史に根ざした長崎大学の伝統を継承しつつ、強み・特色ある教育研究分野を活かすとともに、社会の変化や時代のニーズを的確に捉え、長崎大学の確固たるプレゼンスを示すために教育組織の再編を行う。

- **社会等のニーズに即応する人材を養成するため学部入学定員の適正再配置**
 - ・現代社会から求められている人材を把握するとともに、適正な学部の規模について不断の検証を行い、入学定員の再配置を実施。
- **幅広い学問分野を網羅する教員組織の3学域（人文社会科学域、総合生産科学域、生命医科学域）と連動した研究科の再編**
 - ・総合大学として知的・人的資源を効果的に活用し、専門的知識に加え俯瞰力を備えた良質な人材の育成を可能とする研究科へと再編。

2 異分野融合的教育プログラムや他大学との連携教育プログラムの推進

学部・研究科の枠を越えた新たな学際的教育プログラムや国内外の大学と連携した特色ある教育プログラムを拡大・充実し、多様な社会の課題に多面的に対応できる人材を養成する。

- **複数の学部を跨ぐ「共修科目」を拡充した「副専攻プログラム」の展開と、複数の研究科を跨ぐ新たな学位プログラムの構築**
 - ・各学部のディプロマ・ポリシーとの関連性を考慮しつつ、「経済」「環境」「情報」「医療」「多文化」に関連する「共修科目」を開設・拡充し、「副専攻プログラム」として展開。
 - ・医歯薬学総合研究科と熱帯医学・グローバルヘルス研究科の連携により、公衆衛生分野の科学的知識と実践をつなぐための人材（DrPH（パブリックヘルス））を養成する分野横断型学位プログラムを創設。
- **長崎大学の強み・特色を活かした国際共同教育課程等の更なる拡充**
 - ・新 興 感 染 症 … 熱帯医学・グローバルヘルス研究科とロンドン大学衛生・熱帯医学大学院（国際共同教育課程（ジョイント・ディグリー））
 - ・放 射 線 科 学 … 災害・被ばく医療科学分野におけるロシア北西医科大学（ダブル・ディグリープログラムの構築を協議中）
 - ・海 洋 科 学・海 洋 資 源 … 水産・環境科学総合研究科と国立台湾海洋大学・高雄海洋科学大学（ダブル・ディグリープログラムを実施）
 - ・インフラストラクチャー … 工学研究科と中国山東大学、韓国成均館大学校（ダブル・ディグリープログラムを実施）
- **大学相互の強み・リソースを効果的に活用し、時代に即応した有為な人材育成を可能とする国内大学との共同教育課程の発展・充実**
 - ・複合型自然災害時の緊急時から復興期にかけての健康被害に適切に対応できる人材育成を目指した福島県立医科大学との「災害・被ばく医療科学共同専攻」。
 - ・精度の高い予防医学（スーパー予防医科学）の確立とその専門家庭教育を目指した千葉大学、金沢大学との「先進予防医学共同専攻」。

3 多様化する社会に対応する教育・人材育成の推進

超スマート社会（Society5.0）の実現に向け、その鍵となる情報技術革新に対応できる高度なデータサイエンススキルを有する人材の育成、コロナ禍を踏まえたオンライン教育の構築とその充実及び社会人の学び直しに応えるリカレント教育を推進する。

- **数理・データサイエンス教育の強化と普及**
 - ・教養教育課程において、全学部学生を対象に「統計学」と「データサイエンス」を必修化し、Society5.0で求められる人材像に必要な能力とされている数理的思考とデータ分析・活用能力を育成。
 - ・数理・データサイエンス教育に係る文部科学省指定の「協力校」として、九州地区国公私立大学との連携を強化しながら、大学の特性や学生の理解度に応じカスタマイズした教材の普及等に貢献。
- **未来志向型オンライン教育の構築と離島・へき地地区への展開**
 - ・情報データ科学部を中心に、従来、対面でしか行えないとされていた実験・実習等へのVR（Virtual Reality）、AR（Augmented Reality）、MR（Mixed Reality）等の導入に向けて取り組むとともに、離島・へき地地区の教育へ展開。
- **社会、地域及び企業のニーズを反映した社会人のためのリカレント教育の開発と全学的な展開**
 - ・新たに設置した教育開発推進機構「リカレント教育開発部門」を中心に、地域や企業にヒアリング等を行い、社会人の学び直しのニーズを把握するとともに、オンライン教育で蓄積されたコンテンツを活用したリカレント教育を展開。

4 グローバル人材の育成とキャンパスのグローバル化の推進

グローバル化する社会の要請に応えるための教育改革を実行するとともに、留学生の派遣・受入を増加させることにより、キャンパスのグローバル化を推進する。

- **学部横断型英語教育プログラムの開設や、入試における留学生枠の設定など、外国人留学生の受入増加を促進**
 - ・学部横断型の英語による教育プログラムの開設に向けて、多文化社会学部において英語による特別教育プログラムを開始。
 - ・各学部・研究科の入試において、留学生枠の募集人数を明確に設定した受入を実施。
- **グローバル人材の育成に向けた学生への経済的支援**
 - ・西遊基金を活用し、外国人留学生の受入や日本人学生の海外留学を積極的に支援するための新たな制度を創設するなど、学業に専念できる修学環境を整備。
- **外国人留学生と日本人学生が混住するグローバル・レジデンス（国際学生宿舎）を整備し、キャンパスのグローバル化を推進**
 - ・文教キャンパス北エリアに約300戸を整備し、2023年から入居を開始。多様な文化的背景を持つ学生が共に生活する場を提供することにより、多文化理解の意識を醸成。